

図書館だより

目次

「コロナで世界はどう変わるか？」	
考えるための教員推薦図書 part 2	1~3
インフォメーション	4



「コロナで世界はどう変わるか？」

考えるための教員推薦図書 part 2



2020年より、新型コロナウイルス感染症が世界的に感染拡大し、私たちの生活は一変しました。そして、未だ終息の兆しが見えない日々が続いています。このような状況において、昨年度発行38号の特集「コロナで世界はどう変わるか？」は、引き続き考えていくテーマであろうと思われます。そこで、今号でも「part2」として、本学の各専門分野の先生方から、コロナ禍、そしてコロナ後の世界を考えるために有用な本をご紹介します。本学図書館で借りることができますので、先生方のお話に興味を惹かれるものがありましたら、是非、その本の扉を開いてください。

図書館長 / 人文学部 国際言語文化学科

今仲 昌宏 教授 推薦

『東京を捨てる：コロナ移住のリアル』

澤田晃宏 著 中公新書ラクレ

なかなか刺激的なタイトルである。コロナによるリモートワークがきっかけで「低密」な地方への移住が増加しているが、本書は広範なデータと分析で現況を明らかにしている。過密な東京から地方への移住は、今回のパンデミックによって大きく取り上げられるようになったが、実は異なる理由でかなり以前から進行していたこと、移住先の自治体からの補助金や国からの交付金があること、移住先の選び方などについて豊富な事例が紹介されている。

東日本大震災以降、地震極小地域への移住は静かに進行してきており、「震度4以上の地震の都道府県別観測数」という過去100年間の数値をみると、最多の東京が568、最少は富山・佐賀の13、岡山19となっており、こうした地域へは遠く関東圏からの移住も多いという。

過疎に悩む自治体が補助金等を出せるのは、首都圏に勤務先のある人がリモートを前提として移住する場合、総じて高所得であることから、住民税（市町村民税）が高く、町の経済も潤うために多少のサービスをして費用は即回収できるからだそうだ。移住者を年代別にみると、東京を離れているのは30~50代の子育て世代と60代以上のシニア世代が中心だが、実は20代はコロナ下においても、東京への転入が増加しているという。移住問題を多面的に考える上での様々な情報を提供してくれる書である。



請求記号：365.3/Saw
資料ID：901120998

人文学部 日本伝統文化学科

小橋 玲治 助教 推薦

『文豪たちのスペイン風邪：Literary & Pandemic』

紅野謙介、金貴粉 解説 皓星社

この本にも収録されている志賀直哉「流行感冒」は、4月にNHK BSにて本木雅弘主演でドラマ化されたのでご覧になった方もいるかもしれない。このドラマはちょうど100年前に世界中で流行したスペイン風邪を題材としたもので、直接コロナを扱ったものではないものの、未知の病に相対した時の人々の動向や思考が100年前からほとんど変わっていないことに驚かされる。この本は他にも菊池寛「マスク」など、パンデミックに見舞われた当時の日本の作家たちがその体験を基にして著した作品を集めたアンソロジーである。

人文学の知というものは、このような非常事態に際して直接的な貢献がほとんどできないというのは実感するところが多い。しかしながら、同じような体験をかつて得た人々の残したものを読むという行為は決して無意味ではないし、そこにこそ人文学を大学で学ぶ意義があると考える。殊に上記「マスク」は、他の菊池の作品と併せて同名タイトルで新たに文庫化されており、パンデミック体験というよりももっと普遍的な思考について考えさせられるところがあり、お薦めである。



請求記号：918.36/Kou
資料ID：901121052



国際学部 国際学科

長島 怜央 特任准教授 推薦

『米軍基地がやってきたこと』

デイヴィッド・ヴァイン 著；市中芳江 [ほか]訳
原書房

2020年3月末、西太平洋で活動中だった米海軍の原子力空母セオドア・ルーズベルトは、艦内で新型コロナウイルスの集団感染が起き、危機的状況に陥りました。その後、米海軍は同空母が寄港していたグアムの海軍基地で乗組員を下船させることにしました。軍隊内での集団感染は国家の安全保障に直接影響する大問題と見られていますが、米中対立が激化するインド太平洋でのことであればなおさらでしょう。コロナ禍に乗じて、米中はこの地域での軍事的な活動を活発化させているように見えます。

本書は、このコロナ禍の数年前に出版されたものであり、空母での集団感染についてはもちろん触れていません。しかし、中国の台頭を懸念する声がますます強まっていくと思われるポストコロナの国際社会における安全保障のあり方、とくにアメリカの関与の仕方について、多くのことを示唆してくれます。

アメリカの50州とワシントンDCの外にある米軍基地は、2015年現在で800あり、何十万もの米兵が駐留しています。こうした世界各地に広がる在外軍事基地のほとんどを、アメリカは第2次世界大戦後に戦略的に建設し、国際社会での覇権を構築してきました。その一方で、在外米軍基地は、アメリカの経済的損失や人的損失、海外での環境破壊、事件・事故、人権侵害、そして安全保障上の問題などを生み出してきました。本書はアメリカの安全保障政策を厳しく批判するのですが、けっして難しい内容ではありません。世界各地で現地調査をおこなった人類学者が、さまざまなデータを集め、具体的な事例を示しつつ、多角的に論じているのが面白い点です。ポストコロナの米中対立のなかでの米軍の存在を相対化してくれる有益な書といえます。



請求記号：395.3/Vin
資料ID：901120590

経営学部 経営学科

徳永 朗 教授 推薦

『両利きの経営：「二兎を追う」戦略が未来を切り拓く』
チャールズ・A・オライリー [ほか]著；入山章栄 [ほか]訳 東洋経済新報社

コロナ禍を経ても、ビジネスの成功のカギは何も変わっていません。人々の気持ちに寄り添い、応えること。直近では、デジタルテクノロジーの活用を通して。その基本に変わりはありません。

いくら叫べどもテレワークの浸透に限界があった背景には、変わらない人の気持ちがありました。部下に面と向かってあれこれ言いたい、部下がいないと落ち着かない上司。それに抗えない部下。世の中を動かすには、人間を理解し、わきまえるべきです。それ、マーケティングの基本です。外食店の味を楽しむ自由を奪われた消費者の思いに沿った、デジタルテクノロジーを活用したデリバリーサービスのよう、人々のニーズを的確に捉えたビジネスはコロナ禍で一気に浸透しました。外食と中食（出来合いの家庭内消費）の垣根の崩壊という観点から、新しい形の食の模索も始まっています。コロナ禍で“目覚めた”“気づいた”消費者に寄り添うべく、レジや店員と非接触で買物ができる小売業態の開発も進んでいます。ただ現状、コロナ後の世界を拓くのは、欧米や中国の企業が中心のようです。

コロナ禍前と変わらず、ビジネス界の最大の課題はイノベーションの推進です。それは、利便や気分、暮らしや生き方を変える様を人々が容易に想像できて生活に取り入れたいくなるような画期的な事業・製品、あるいはその価値創出のための仕組みやビジネスモデルを、デジタルの力を借りて構築することです。本書は、イノベーションには知の「探索」と「深化」の二兎を追うことが必要だと、理論と実例を通して説くものですが、社会を変える種々のビジネスがどのようにして生まれたのかを知るだけでも十分興味深いでしょう。



請求記号：336.1/0re
資料ID：901118903

様々な視点から“ポストコロナ”を考える ～図書館には他にもこんな本があります～

スマホ断食：コロナ禍のネットの功罪 / 藤原智美 著 (潮新書) 請求記号：007.3/Fuz 資料ID：901120999	アフターコロナのニュービジネス大全 / 原田曜平, 小祝誉士夫 著 ディスカバー・トクエティワ 請求記号：602/Har 資料ID：903019705
ワーケーションの教科書 / 長田英知 著 KADOKAWA 請求記号：336.4/Nag 資料ID：901121000	あの夏の正解 / 早見和真 著 新潮社 請求記号：783.7/Hay 資料ID：901120995
ともに食べるということ：共食にみる日本人の感性 / 福田育弘 著 教育評論社 請求記号：383.81/Fuk 資料ID：901120885	デジタルで変わる子どもたち / バトラー後藤裕子 著 (ちくま新書) 請求記号：807/But 資料ID：901120997
自粛するサル、しないサル / 正高信男 著 (幻冬舎新書) 請求記号：498.6/Mas 資料ID：901120878	臨床の砦 / 夏川草介 著 小学館 請求記号：913.6/Nat 資料ID：901121061



経営学部 経営学科

石川 正敏 准教授 推薦

『デジタル化する新興国：先進国を超えるか、監視社会の到来か』
伊藤亜聖 著 中公新書

2010年代ごろまでは先進国がICTを活用したデジタル化社会の実現に向けての実験場の中心であったが、近年は中国やインド、東南アジアといった一部の新興国が、その中心となりつつある。伊藤亜聖著の「デジタル化する新興国」では、新興国がこのような実験場の中心となりつつある背景、社会が急速にデジタル化することの良い面と負の面、さらに日本がこのような新興国とどのように関わっていくべきかを述べている。本書では新興国がデジタル化社会実現に向けての実験場の中心となりえた背景や影響を、経済活動の観点から述べているが、その中で特に私は“信用”と言うキーワードに着目した。理由の一つはICTによる信用の創出が、ビジネスにおいて良い効果を発揮していることである。具体的には、これまで取引相手の信用を計るのに多くの時間が必要だったが、ICTを活用した仲介によって、その時間的コストを大幅に削減した。これにより効率的な取引がより大規模に実施可能となった。他方、ICTによって過度な信用保証を求めるあまりに監視社会へと変貌する危惧も挙げられる。加えてICTによる情報の信用を揺るがす事態として、フェイクニュースの蔓延も挙げられる。特にこれらのリスクは、新興国でより大きいと本書で著者は指摘している。このように新興国で行われる様々な試みは、成熟したデジタル化社会に向けて多くの示唆を得られるので、これから新興国の動向に注目すべきであろう。

請求記号：007.3/Ito
資料ID：901121001

経営学部 経営学科

鈴木 誠二 准教授 推薦

『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』
宗田好史 著 学芸出版社

UNWTO（国連世界観光機関）によると、2020年の新型コロナウイルスの感染症は、世界の96%の国々が海外旅行を制限し、90カ国で国境を閉鎖もしくは通過を制限し、44カ国以上が感染国に滞在した旅行者の入国を制限した。この規制が今や、世界GDP総額の10%以上を占める観光産業に与えた影響は大きかった。観光産業だけでも、世界中で何億人分の雇用が失われた。そして、第二次大戦後、多少の浮沈はあったものの75年間も続いた経済成長に急ブレーキがかかった。このように状況を整理したうえで、本書は、コロナ後への観光政策をイタリアと京都から検討しています。コロナ後に向けた地方都市の観光再生として、量を制御し質を高め地域を豊かにする八つの戦略（正確な観光統計による把握と観光客の制御、人口減少に即して施設は縮小しつつ再生する、地元の人が働く職場を優先する、小ささを活かすなら厚利小売、観光とネット通販で世界と結びつく、お洒落に暮らす地元住民の生活文化で惹きつける、町のヘビー・ユーザーをつける、観光と交流から新しい生活文化を生み出す）を明示しています。

現在、このようにコロナ影響を考察し、コロナ後を仮説している書籍は数多くあります。書籍から、たくさんの考察や仮説を吸収することで、コロナ後に勝ち抜くためのアクションプランの立案も可能です。本書は、観光政策の明示にとどまらず、コロナ後の経済や社会状況に関する考えを整理するためのベースになる構成です。是非、参考にして下さい。

請求記号：689.237/Mun
資料ID：901120871

“ポストコロナ”について、有識者の考えや最新情報を知る ～Webサイトで情報を得る～

ポストコロナを考えるために、本以外にWeb上でも様々な情報が得られます。

各種検索エンジン（google、Yahoo!など）でサイト名を検索してアクセスしてください。

【各分野の有識者たちの考えを知る】

- 連載 私のコロナ史（飯島渉 著）[B面の岩波新書（岩波新書編集部）]
- 連載 アフター・コロナの新文脈 博報堂の視点 [博報堂 Web マガジン センタードット]
- 連載 遮られる世界～パンデミックとアート（榎木野衣 著）[ウェブマガジン ARTNE]
- 連載 コロナを「チャンス」にする仕事の進め方 [マイナビニュース]
- 連載企画 Day to Day [好きな物語と出会えるサイト tree（講談社）]

【最新の情報を収集する】

- 新型コロナウイルスに関するウェブサイト集（世界・日本）[国立国会図書館リサーチ・ナビ]
- 新型コロナウイルスに関する主な新聞社ウェブサイトの特集ページまとめ（国内版）[国立国会図書館リサーチ・ナビ]



図書館個人ポータル「マイライブラリ」を使ってみませんか？

マイライブラリとは、図書館からの利用者への連絡事項や利用状況の確認、貸出期間の延長やリクエストなどができる利用者のポータルページです。マイライブラリを利用するには、図書館ホームページ右上の「ログイン」ボタンをクリックして、Office365のメールアドレスにお送りしたIDとパスワードを使ってログインしてください。

確認できる情報や可能な操作は以下のとおりです。

ご不明な点は、図書館カウンターにお問い合わせください。



お知らせ：図書館からの連絡事項や利用状況にあわせてお知らせが表示されます。

借用中の資料：借りている資料が確認できます。貸出期間を延長することもできます。

入手待ちの資料：予約中の資料が確認できます。予約を取り消すこともできます。

新規申し込み：購入希望資料の書名や出版社などの資料の情報や希望理由を入力し、リクエストをすることができます。

ブックマーク：ブックマークした資料が確認できます。キーワードを指定してリストを作成することもできます。

履歴：過去に借りた資料の履歴一覧を確認できます

個人設定：サービスの設定（言語・表示件数・並び順など）やログインするためのパスワードの変更ができます。

2020年度図書館長賞受賞者発表！



第2回目となる「Best Student Award 図書館長賞」の受賞者が選出されました。

同賞は翠樟会（大学後援会）活動の一環として、図書館の活用度が高く、学修等を中心において他の学生の模範となるような学生を表彰するために2019年度に創設され、学部生・大学院生の全学年の中から、図書館の貸出冊数が多く、かつ学力や教養等の向上に努めたと認められる学生が各学科から1名ずつ選出されます。

2020年度の受賞者は以下の方々です。受賞された皆さん、おめでとうございます。

2020年度 受賞者一覧

所属学部学科		学年（受賞時）	氏名	所属キャンパス
人文学部	日本伝統文化学科	卒業（4年）	ト部 剛さん	八千代キャンパス
	国際言語文化学科	4年（3年）	森 愛絵さん	八千代キャンパス
国際学部	国際学科	該当者なし		
応用心理学部	福祉心理学科	卒業（4年）	枝 良美さん	八千代キャンパス
	臨床心理学科	2年（1年）	吉田 ひかりさん	十条台キャンパス
	健康・スポーツ心理学科	3年（2年）	高橋 和奏さん	八千代キャンパス
子ども学部	子ども学科	卒業（4年）	増田 ひとみさん	十条台キャンパス
経営学部	経営学科	該当者なし		
大学院	心理学研究科	修士2年（修士1年）	福田 剛さん	十条台キャンパス

※ 翠樟会活動の一環のため、現在のところ短期大学生は対象外となっております。

図書館のご利用について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況に応じて開館スケジュールや利用方法は随時変更されております。

ご利用に際しては、図書館ホームページ掲載の開館カレンダー及びお知らせをご確認いただき、ご不明な点がございましたら、図書館までお問い合わせください。なお、来館に際しては、感染防止対策として以下の点にご注意願います。

- *咳、発熱、倦怠感などの風邪のような症状のある方は来館をお控えください。
- *マスクを着用し、入口設置の消毒用アルコールでの手指消毒をお願いします。
- *館内では会話をご遠慮いただき、他の利用者と距離を確保するようにしてください。

長期にわたりご不便をおかけしておりますが、ご理解のほどお願いいたします。

